

栃木県原水協ニュース

No 194号 2019年9月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

核兵器廃絶へ 2019年原水爆禁止世界大会—長崎



8月2日から9日まで、原水爆禁止世界大会が開催されました。栃木県から7日から9日まで開催された長崎大会に15人の代表が参加しました。

◆8月2日から4日国際大会
 広島市内で開催された国際会議は、被爆75年2020年を「核兵器のない平和で公正な世界への歴史的転機とするために被爆者とともに立ち上がる」と訴える国際会議宣言を採択しました。

◆8月5日
 広島市での「市民と海外代表の交流会集会」は、さまざまジャンルで活躍する海外代表とともに交流会を行いました。

◆8月6日
 ヒロシマデー集会は1300人の参加者で開催されました。被爆者のあいさつ、オーストリア欧州統合外務者公使、駐日キューバ大使館臨時代理大使など政府機関の代表が発言し、広島市の松井一実市長のメッセージも寄せられました。



栃木県代表団は6日長崎入りし、夕方交流会を開き、大会への参加の思いなどを語りあいました。

◆8月7日
 7時30分にホテルを出発し、74年前原爆が投下された爆心地公園を訪れ、千羽鶴を掲げました。その後「原爆資料館」では、会場の案内の方から説明を受けながら、1945年8月9日当時の展示物を見るなかで、悲惨な実相を学びました。浦上天主堂など被爆をうけたところまわりながら、午後の集会にむかいました。

15時30分から、長崎市民会館体育館で開会総会が4000人の参加者で開かれました。

主催者報告した世界大会議長団の安齋育郎さんからは、「ヒバクシャ国際署名を世界中に広げ、原水爆禁止世界大会ニューヨークへ総結集しよう」との訴えがあり、田上富久長崎市長は、「核兵器をなくすのは市民社会の力だ」とのべ、連帯する決意を語りました。広渡清吾「市民連合」呼びかけ人の連帯あいさつ、各国の政府代表の発言、国内のたたかいが報告され、会場は熱気につつまれていました。

◆8月9日
 10時30分から世界大会ナガサキデー集会には会場があふれかえるほどの5,000人が参加しました。

4才で被爆した横山照子さんの被爆体験では、両親、妹の4人とも被爆しました。お父さんは爆心地から1・2kmで被爆を受け、4日目に防空壕で再会しましたが、顔から血が吹き出て体全体が焼け太って、この世の人とは思えないありさまでした。横山さん家では、いつも誰かが入院している状況。

「再び私たちのような被爆者をつくらないで、私たちが生きていけるうちに核兵器の廃絶を！」と願いながら多くの被爆者が旅立ちました。被爆者は最後の力振り絞って、皆さんと一緒に頑張りますと、訴えました。



◆8月8日
 この日は13の分科会が開催され、それぞれの分科会に参加しました。栃木からの代表で広島で11歳のとき被爆された、小松宏生（ひろみ）さんは青年ひろろばで、若ものたちに被爆体験を語りました。

夕方からは、女性のつどい、民医連などの交流会も開かれました。



海外代表の人たちも、「核兵器のない世界の行動を」を訴え。長崎の高校生が「高校生1万人署名」が20万人を超え、高校生平和大使が国連に届けると述べると、拍手がわき起こりました。

長崎決議の提起・採択。会場は「ヒバクシャ国際署名」を集めてNPT再検討会議に届けようとアピールすると会場は一つになりました。

世界大会に7人の方は、初めての参加者です。興奮さめやらぬ会場をあとにし、バスで福岡航空へ。全員無事に帰路に着きました。



核廃絶へ各地で6・9行動
 8月6日、核兵器廃絶を訴える「6・9行動」は宇都宮市、足利市、壬生町など各地でとり組みました。宇都宮市では新婦人宇都宮支部と宇都宮市原水協が広島市に原爆が落とされた74年目の日にオリオン通り交差点で「ヒバクシャ国際署名」の訴えを行いました。ある女子高校生は一旦信号を渡ってから考え直し引き返して、笑顔で快く署名をしてくれました。

壬生町ではCOOPおもちゃのまち店頭で新婦人壬生支部の会員が署名の協力と「核兵器禁止条約」の批准を求めようと訴えました。

平和の鐘をつく集い

8月6日と9日の二日、平和の鐘をつく集いをさくら市の東輪寺で行われました。

6年目の集い、両日の企画は3年目です。のべ100名を超える参加者があり、マスコミ関係者も訪れ県内での関心もたれる集いになりました。

6日には高雄市郎さんのインパール作戦について、9日には秋元武夫さんがシベリア抑留から引き揚げ、混乱の中で戦後をどんな経験をされたのか、また檀家の岡崎さんからは戦争で身内が引き裂かれた話など。74年を経過したこんにち、原爆投下と戦争の惨禍を



これからも語り継いでいくことの大切さを確認する集いになりました。

「ヒバクシャ国際署名」数

諸団体	県北原水協	2,997筆
	県南原水協	102筆
	宇都宮市原水協	1,338筆
	非核の会	191筆
	新婦人の会	8,706筆
	民医連	2,142筆
	保険医協会	604筆
	県原水協	137筆
	小山推進委員会	140筆
	非核下野市の会	264筆
	県労連	28筆
	栃木県平和委員会	54筆
	鹿沼原水協	322筆
自治体	日光市	953筆
	下野市	494筆
	栃木市	81筆
	小山市	109筆
	上三川町	160筆
壬生町	165筆	
合計 (8/28現在)	18,978筆	

世界大会青年の集いで小松さん被爆体験を語る



8月8日、長崎市内で開かれ「青年のつどい」に参加し、若ものたちに被爆体験を語りました。

「昭和20年8月6日、広島に原爆が落とされた日です。私は国民学校に6年生11歳でした。学童疎開で広島市内から20^{キロ}離れた山縣郡のお寺に3年生から6年生まで30人、同じ村の公民館、他の村にも何か所に別れて疎開しました。戦争中でしょう『ガンバリマス、勝つまでは』と歯をくいしばって頑張りました。そしてあの日8時15分にピカーッともの凄いヒカリ・・・」と話しはじめると、若ものたちは、くいいるように聞き入っていました。約1時間の講演のあと、一人ひとりが質問をし、それに丁寧に答え有意義な集会になりました。

小松宏生さんは、原爆ドームのすぐそばビルで働いていたお父さんをお母さんと探し歩いて被爆しました。詳しい内容は、9月29日(日)14時からの宇都宮市総合コミセンで開催される「原爆展」でお話しされます。ぜひご参加を！(主催=新日本婦人会の会宇都宮支部・宇都宮市原水協 連絡先 028-635-9025 新婦人事務所)

2019年世界大会解団式開かれる



8月24日、宇都宮市文化会館で世界大会参加者ら13人が参加して世界大会の感想が語られました。すべての参加者から、大会参加の感動や、ヒバクシャ署名や今後の大会参加への取り組み、これからの運動への決意が述べられました。「栃木県代表団感想文集」をご覧ください

2020年NPT&世界大会ニューヨーク代表団の派遣プランについて(案)

★**ニューヨーク基本コース(5泊7日)9便** 4月23日(木)ニューヨーク到着 24日(金)～25日(土)世界大会ニューヨーク 26日(日)マンハッタンパレード、署名の共同提出など 27日(月)NPT再検討会議開会、ニューヨーク市内観光 28日(火)現地出発 29日(水)日本到着

★**参加者募集について**

9月下旬：代表団派遣要綱と申込書配布 10月末：第1次募集締め切り 2020年2月末：代表団参加申し込み締切(予定)

今年もいわさきちひろカレンダーを普及しましょう。

2020年版カレンダー(大判) 1400円+税

栃木県原水協2019年第44回定期総会のお知らせ

日時：11月16日(土) 13:30～

会場：宇都宮市 国本地区市民センター